

古生物紹介

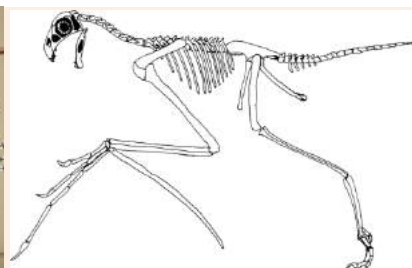
<「奇妙な翼」と名付けられた恐竜>

イーチャー (yi qi)

竜盤類・獣脚類・原鳥類 (paraves)

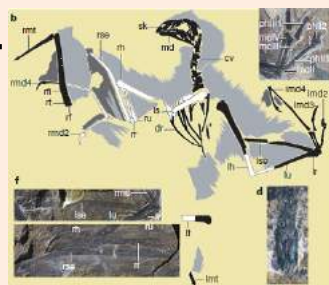
ジュラ紀中期～後期 中国・河北省

サイズ:ハトくらい



イーチャーは2015年に報告があった恐竜であり、その特徴は大いに話題となった。図のように、イーチャーは手首から棒状の骨が伸びている。この骨と指の骨の間に膜のパッチが残っていた。つまり、鳥類の近縁でありながら、翼ではなく、コウモリのような皮膜を発達させた恐竜なのだ。また、羽毛をもち、前肢と後肢に大きく硬い糸状羽をもつ。これらの羽毛からは黒色の色素も見つかっている。おそらく、体温調整か同種間のディスプレイに使われたのであろう。鳥類の起源の付近で生じた、空への進化の広さと豊かさを際立たせる化石として注目が集まっている。

参考文献 NATURE | VOL 521 | 7 MAY



2015

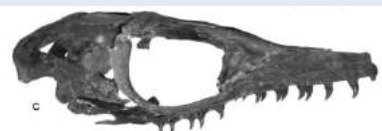
コラム モササウルスの新たな生態に迫る！！

前号の古生物紹介に続いて、映画「ジュラシックワールド」でも活躍したモササウルス類の最新情報をお伝えする。

北海道むかわ町で日本で4番目のモササウルスの新種が発見された。*Phosphorosaurus ponpetelegans* と命名されている。この新種のモササウルスは、眼窩前方で鼻面が低く、狭いというような、立体視が可能な両眼視の構造がモササウルスで初めて確認されている。立体視は捕食に有利な機能だが、このモササウルスは比較的小型で、遊泳速度も高くないことから捕食以外の目的があったと推測されている。その目的とは夜行性だ。両眼視は単眼視に比べ、光源を感知する光受容体の数が多くなることから、暗視に適している。

夜行性という新たな生態が発見され、新たな一面を見せたモササウルスに今後も目が離せない！！

Journal of Systematic Palaeontology
07 Dec 2015



掘り出しコラム

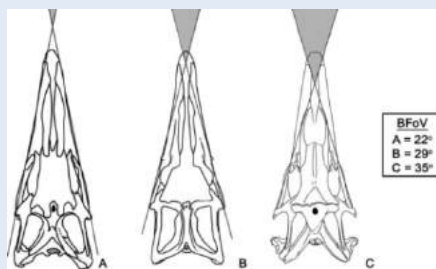
(掲載できなかった過去の記事を紹介)

高速遊泳型シーラカンス

新しいシーラカンスの化石が見つかった。この新種のシーラカンスはマグロのような尾びれを持っているという特徴があり、普通のシーラカンスよりはやく泳ぐことができたであろうと考えられている。しかし、最終的に生き残ったのはゆっくりと泳ぐシーラカンスなので、ナショナルジオグラフィックはこの新種のシーラカンスを「壮大なる失敗作」と称している。かわいそうに・・・

また、学名は *Rebellatrix divaricercus* であり、属名の "rebel" は "逆らう者" を意味している。シーラカンスの常識に逆らっているので、このように命名されたそう。逆らった結果がこれとは・・・

シーラカンスの世界では「出る杭は打たれる」を肝に銘じておく必要がある環境に行くよりも深海でゆっくり泳いでおく方が幸せだったのかもしれない。シーラカンスの常識から逆らった君の勇姿は忘れない！！ (2012年3月)



Journal of Vertebrate
Paleontology
32(3), p.499-511, 2012



↑ (左) *Rebellatrix divaricercus* の復元図 (右) 現生種 *Latimeria chalumnae* の冷凍個体

